

Scalar i500 スタート ガイド

日本語の『Scalar i500 スタートガイド』は付属品キットの『Scalar i500 Documentation and Training CD』で利用可能です。

はじめに	3
ステップ 1：ライブラリの開梱	4
ステップ 2：ラックへのライブラリの取り付け (5U と 14U はオプション)	5
ステップ 3：モジュールの取り付け	5
スタンドアロンユニットとしての制御モジュールの使用	5
マルチ モジュール ライブラリ構成の使用	5
ステップ 4：モジュール コンポーネントの取り付け	10
ステップ 5：テープ ドライブ ケーブルの接続	11
パラレル SCSI ケーブルの接続	12
ホストまたはスイッチへの Fibre Channel ケーブルの直接接続	14
Fibre Channel I/O ブレードを通した Fibre Channel ケーブルの接続	15
Serial Attached SCSI (SAS) ケーブルの接続	16
ステップ 6：ライブラリのケーブル接続	17
EEB へのイーサネット ケーブルの接続	18



ステップ 7：ライブラリ設定

19

ステップ 8：ライブラリの実行

21

米国製

Quantum Corporation はこの出版物を「現状のまま」提供し、商品性、特定目的への適合性などに関し、いかなる明示または黙示を問わず、一切の保証も行いません。Quantum Corporation はこの出版物を予告なく改訂する場合があります。

著作権情報

© Copyright 2012 by Quantum Corporation. 無断転載を禁止します。

このマニュアルのコピー権は著作権法によって制限されています。Quantum Corporation の書面による事前の許可なくコピーや派生品を作成することは、法律によって禁じられており、法律違反として処罰の対象となります。

商標情報

Quantum、Quantum ロゴ、Scalar は Quantum Corporation の登録商標です。

その他の商標は各所有会社に帰属します。

はじめに

『Scalar i500 スタート ガイド』では、Scalar i500 ライブラリの開梱、セットアップ、取り付けに必要な手順の概要を説明します。ライブラリの設定および実行ならびに部品の追加、取り外し、交換の詳細については、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

本製品にはリリース ノートも付属しています。リリース ノートでは、前回のリリース以降にシステムまたはファームウェアに加えられた変更、互換性、既知の問題点と回避策を説明します。リリース ノートは、www.quantum.com でご覧いただけます。その他のドキュメントの一覧は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

注： 本製品を使用される前に、本書と『システム、安全、規制情報ガイド』に記載されているすべての説明と警告をお読みください。なお、本書は必ず『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』と合わせてご使用ください。

警告： 5U 制御モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置を除いて約 26kg (58 lbs) です。9U 拡張モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置がない状態で、30kg (65 lbs) 以上あります。けがを避け、安全に設置位置にモジュールを持ち上げるには 2 人必要です。

警告： 電源コンセントは、ライブラリ周辺の簡単にアクセスできる場所でなければなりません。

警告： 14U 以上のライブラリはすべて、主要保護接地 (アース) 端子付きのラックに設置し、電源は工業用プラグと壁コンセントか、 1.5 mm^2 (14 AWG) 以上の断面積の IEC 60309 (または該当する国内基準) 準拠の保護接地 (アース) コンダクタ付き電源接続器、またはその両方を使用して供給する必要があります。

ライブラリの前面と背面には、通気と作業用のスペースを 60cm (24 インチ) ほど空けてください。

警告： ラックにモジュールが 1 つでも入っている場合は、ラックを移動しないでください。

注： ドライブは、Fibre Channel I/O ブレードに接続されているときはイーサネットに接続できない場合があります。

ステップ 1：ライブラリの開梱

注意： 全梱包材とオレンジ色のロボット固定用アセンブリは、将来ライブラリを移動または搬送するときのために保管しておいてください。

- 1 ライブラリに同梱の開梱説明書に従って、ライブラリ外側のパッケージを取り除きますが、ライブラリは下方のパッケージトレイに入れたままにしておきます。
- 2 パッケージの内容を梱包票に照らし合わせて確認します。
- 3 内側のパッケージを取り除きます。

注意： 次のものは必ず取り外してください。

- ロボットをライブラリのフロアに安全に固定するためのオレンジ色のロボット固定用アセンブリ
- I/E ステーションについている黄色の小片

警告： 5U 制御モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置を除いて約 26kg (58 lbs) です。9U 拡張モジュールの重量は、テープドライブ、テープカートリッジ、電源装置がない状態で、30kg (65 lbs) 以上あります。けがを避け、安全に設置位置にモジュールを持ち上げるには 2 人必要です。

- 4 ライブラリからテープドライブを取り外します。

テープドライブの取り外し方については、『*Scalar i500 ユーザーズガイド*』を参照してください。

- 5 ライブラリから電源を取り外します。

電源の取り外し方については、『*Scalar i500 ユーザーズガイド*』を参照してください。

- 6 ライブラリの設置に最適な場所を選びます。

損傷を避けるため、ライブラリは安定した場所に設置します。お使いのライブラリの最適な設置場所に関する詳細については、『*システム、安全、規制情報ガイド*』を参照してください。

警告： 電源コンセントは、ライブラリ周辺の簡単にアクセスできる場所でなければなりません。

- (製品ラベルに示した種類の) 電源があることを確認します。電源要件については、『*Scalar i500 ユーザーズガイド*』を参照してください。
- ケーブルを踏んだり、機器の下敷きになったり挟まれないように注意しながら配線します。コンセントやライブラリからコードが出ている箇所については、特に注意してください。推奨されるケーブルの取り付け手順については、『*Scalar i500 ユーザーズガイド*』を参照してください。
- ライブラリの開口部に物を落としたり液体がこぼさないよう注意してください。

ステップ 2：ラックへのライブラリの取り付け (5U と 14U はオプション)

14U より高いすべての Scalar i500 ライブラリはラックに取り付ける必要があります。ラックは一番下のモジュールを固定し、他のすべてのモジュールはこの一番下のモジュールに固定します。ラックへモジュールを取り付けるときは、2 人以上で行う必要があります。手順は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

ステップ 3：モジュールの取り付け

2 通りのライブラリ構成が可能です。

- [スタンドアロンユニットとしての制御モジュールの使用](#)
- [マルチ モジュール ライブラリ構成の使用](#)

スタンドアロン ユニットとしての制御モジュールの使用

- 1 ライブラリの I/E ステーション ドアとアクセス ドアを開きます。

注： I/E ステーションのドアがロックされている場合は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』でロック解除手順を参照してください。

- 2 制御モジュールを持ち上げて希望の位置に配置します。
- 3 制御モジュールをラックに取り付ける場合は、ラック イヤーを使って制御モジュールをラックにしっかり固定します。手順は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- 4 [ステップ 4：モジュール コンポーネントの取り付け](#) ページの 10 に従って取り付けを続行します。

マルチ モジュール ライブラリ構成の使用

新しくマルチ モジュールのライブラリを取り付ける、または既存のライブラリに拡張モジュールを追加する場合は次の手順に従います。

必要な工具：

- プラス ドライバー 上部カバー プレートの取り外しと取り付けに使用
- T10 TORX ドライバー 底面カバー プレートの取り外しと取り付けに使用

制御モジュールの取り付け位置について、特に規制はありません。ただし、32U までのライブラリ構成の場合、制御モジュールを、設置されているすべての 9U 拡張モジュールの上に置くことをお勧めします。41U のライブラリ構成の場合、制御モジュールは 3 つの 9U 拡張モジュールの上、トップの拡張モジュールの下に置くことをお勧めしま

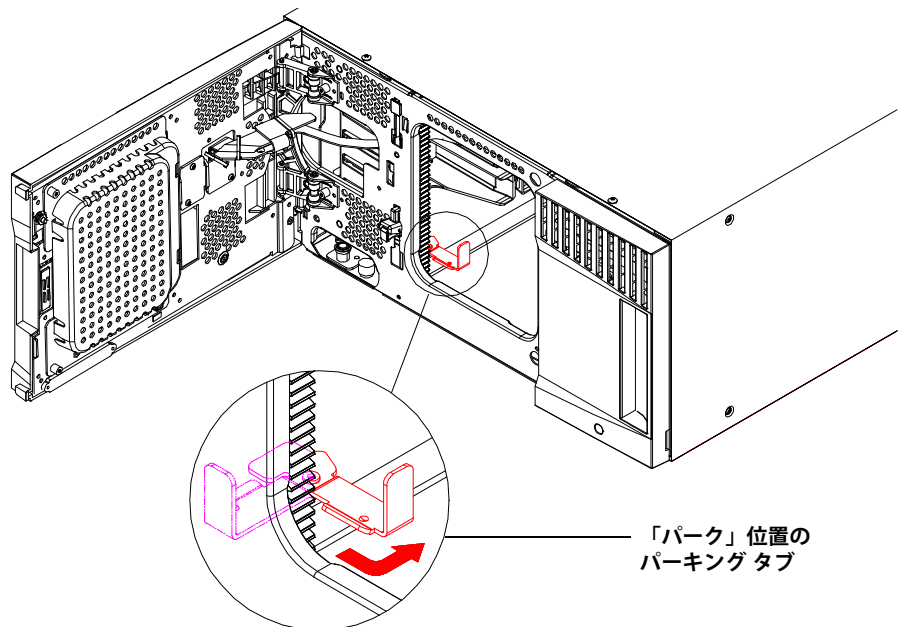
す。構成によっては、各モジュールの上面と底面のカバー プレートを取り外して、ライブラリに上面カバーと底面カバーが1つずつしかないことを確認する必要があります。

				カバー プレート
			カバー プレート	拡張モジュール
		カバー プレート	制御モジュール	制御モジュール
	カバー プレート	制御モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール
カバー プレート	制御モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール
制御モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール	拡張モジュール
カバー プレート	カバー プレート	カバー プレート	カバー プレート	カバー プレート
5U	14U	23U	32U	41U

- 1 ロボット アセンブリを制御モジュールでパークします。
 - a 各モジュールの I/E ステーション ドアとアクセスドアを開きます。
 - b 手でロボット アセンブリを制御モジュールまでゆっくりと持ち上げます。ロボット アセンブリをゆっくりとスライドさせます。

注意： ロボット アセンブリは、幅広の金属製 X 軸プレートで支えてください。金属性の細い棒を持ってロボットを持ち上げると、棒が曲がります。

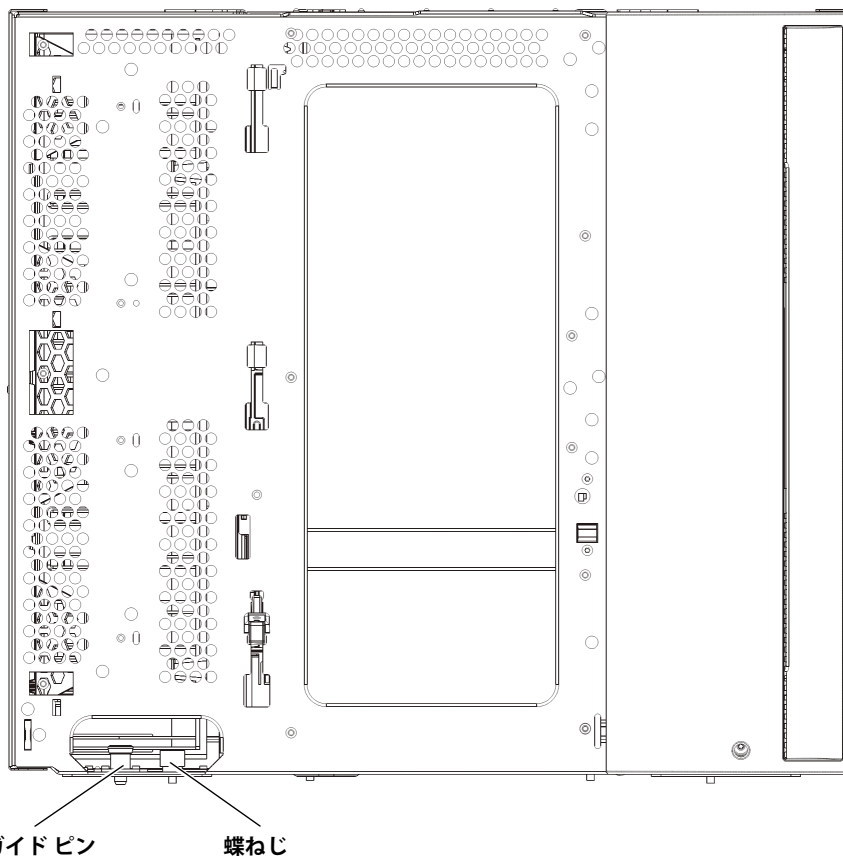
- c ロボット アセンブリを制御モジュールの中程まで持ち上げ、一方の手でその位置に保ちながら他方の手でパーキング タブを「パーク」位置で止まるまで左方向に回します。金属性のパーキング タブは列「1」の一番下にあります。
 - d ロボット アセンブリをゆっくりと下げてパーキング タブに載せます。



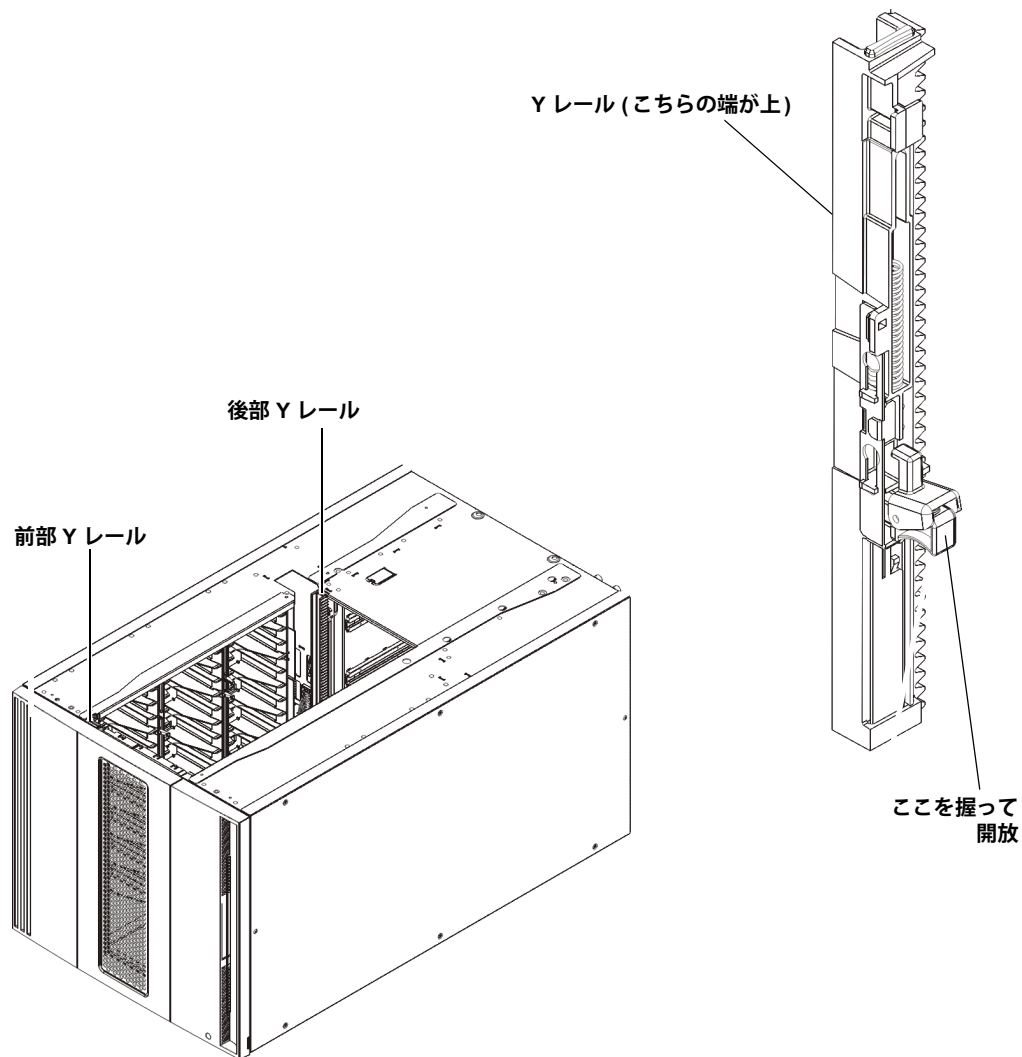
- 2 必要に応じて上または下のカバー プレートを外します。
 最終構成の上カバーと下カバーは各 1 枚のみになります。モジュール間にカバー プレートがあってははいけません。

3 拡張モジュールを取り付けます。

- a** 拡張モジュールのアクセス ドアを開き、ガイド ピンを上に引き、ねじのように少し回転させて浮かせます。この操作を怠ると、下のモジュールの前面ドアに傷がつくことがあります。



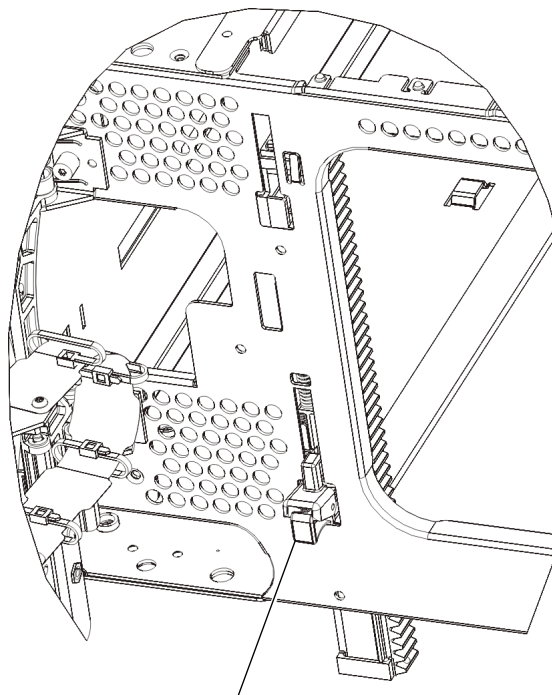
- b** 新しい拡張モジュールを持ち上げ、ライブラリの前面から適切な場所に配置します。
- c** 拡張モジュールを別のモジュールの上に積み重ねる場合は、(モジュールの前面底部にある)モジュールのガイド ピンを回しながら押し下げます。モジュールの前面底部と裏面底部にあるそれぞれ 2 本の蝶ねじを締めて 2 台のモジュールを固定します。
- d** モジュールの前面と背面の底部にある蝶ねじを、すべて締めます。
- e** ラックに取り付ける場合は、ラック イヤーを使ってモジュールをラックに固定します。手順は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- f** 拡張モジュールを別のモジュールの上に配置する場合は、ライブラリ構成で新しいモジュールの Y レールをライブラリに噛み合わせます。Y-レールが正しくはめ込まれ、蝶ねじが締まっているか確認します。



- g** ライブラリの前面から、拡張モジュールの I/E ステーションと前面ドアを開きます。Y レールの開放つまみを起こしてロック位置から開放し、下までスライドさせます。
- h** ライブラリ背面から、モジュール内部右側にある後部 Y レール開放つまみを見つけます。Y-レールの開放つまみを起こしてロック位置から開放し、下までスライドさせます。

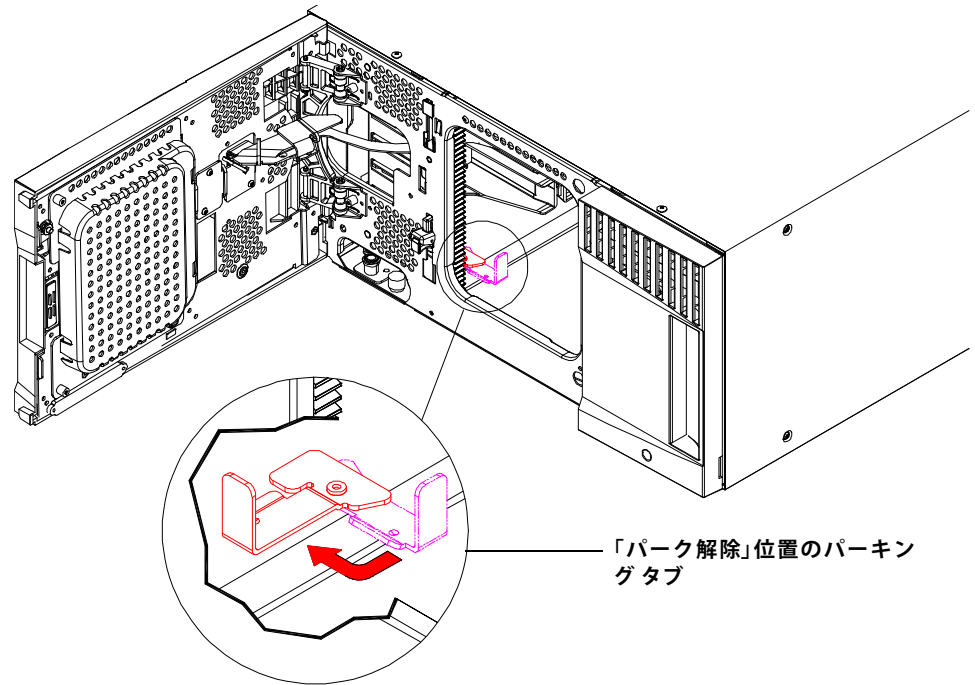
注意： ライブラリの前面と背面にある上部と下部の Y レールの上に、隙間がないか確認してください。隙間があると、ライブラリは機械的に初期化を実行できません。

上記の手順により、このモジュールの Y レールと下のモジュールの Y レールが揃います。



Y レール (アンロックされた作動の位置)

- i 取り付ける各拡張モジュールに同じ手順を繰り返します。
- 4 制御モジュールを取り付けます。
- a 制御モジュールの I/E ステーション ドアとアクセス ドアを開きます。
 - b 制御モジュールを持ち上げて希望の位置に配置します。
 - c 制御モジュールを別のモジュールの上に配置する場合は、モジュール前面の底部にある 2 本の蝶ねじと、モジュール背面の底部にある 2 つの蝶ねじを使用して、これら 2 つのモジュールを固定します。次に、モジュールのガイド ピン (モジュール前面の底部) を回して押し下げます。
 - d モジュールの前面と背面の底部にある蝶ねじを、すべて締めます。
 - e ラック イヤーを使って、制御モジュールをラックに固定します。手順は、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。
- 5 ロボット アセンブリをパーキング位置から外します。
- a ロボット アセンブリをゆっくりと持ち上げて、パーキング タブから開放します。
- 注意：** ロボット アセンブリは、幅広の金属製 X-軸プレートで支えてください。金属性の細い棒を持ってロボットを持ち上げると、棒が曲がります。
- b 空いている手で、パーキング タブを右回りに動かすと、「パーク解除」位置で止まります。正しい位置にあるとき、パーキング タブはモジュールの内部から完全に外されるので、誤ってロボットの経路に移動することがありません。
 - c ロボット アセンブリをゆっくりと放します。ライブラリの一番下のモジュールまで下がります。



ステップ 4：モジュール コンポーネントの取り付け

以下の手順の詳細については、『Scalar i500 ユーザーズ ガイド』を参照してください。

- 1 ライブラリ制御ブレード (LCB) が搭載されていない場合は、これを制御モジュールに取り付けます。
- 2 テープドライブを取り付けます。
- 3 電源装置を取り付けます。
- 4 Fibre Channel I/O ブレードを取り付けます (必要かつまだ取り付けられていない場合)。
- 5 イーサネット拡張ブレード (EEB) を取り付けます (必要かつまだ取り付けられていない場合)。

ステップ 5：テープ ドライブ ケーブルの接続

お使いのライブラリに設置されたテープ ドライブの種類に応じて以下の説明を参照してください。次の接続について説明が用意されています。

- [パラレル SCSI ケーブルの接続](#) ページの 12
- [ホストまたはスイッチへの Fibre Channel ケーブルの直接接続](#) ページの 14
- [Fibre Channel I/O ブレードを通した Fibre Channel ケーブルの接続](#) ページの 15
- [Serial Attached SCSI \(SAS\) ケーブルの接続](#) ページの 16
- [EEB へのイーサネット ケーブルの接続](#) ページの 18

ライブラリは SCSI、FC、SAS ドライブのどの組み合わせも可能で、ホストに直接または Fibre Channel I/O ブレード経由で接続できます。次の説明のうち、複数の説明を参照することが必要な場合があります。EEB の取り付け手順は、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。詳細な説明は、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。

図 1 HP LTO-5 および LTO-6 デュ
ポート Fibre Channel テープドライ

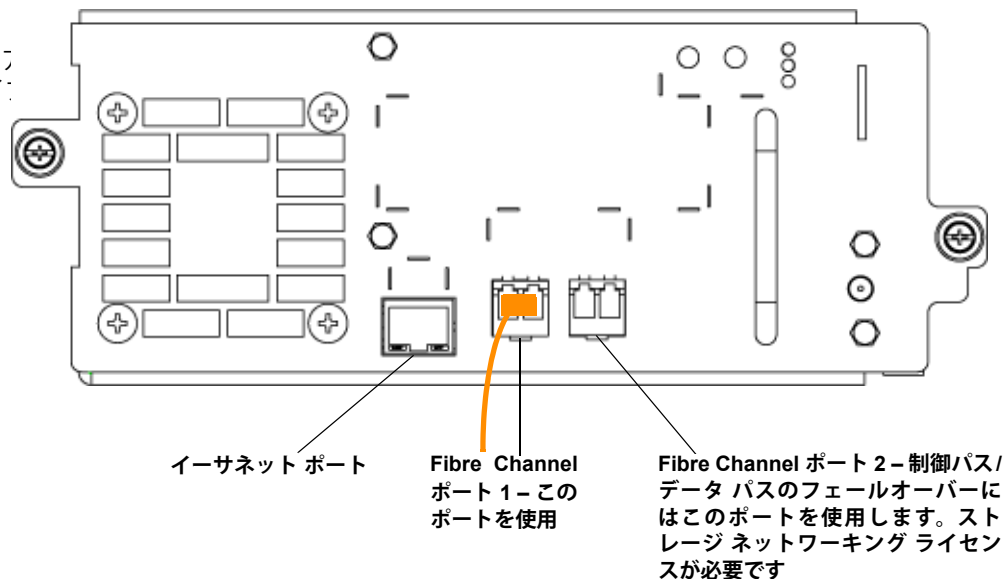


図 2 HP LTO-5 および LTO-6 シングルポート SAS テープドライブ

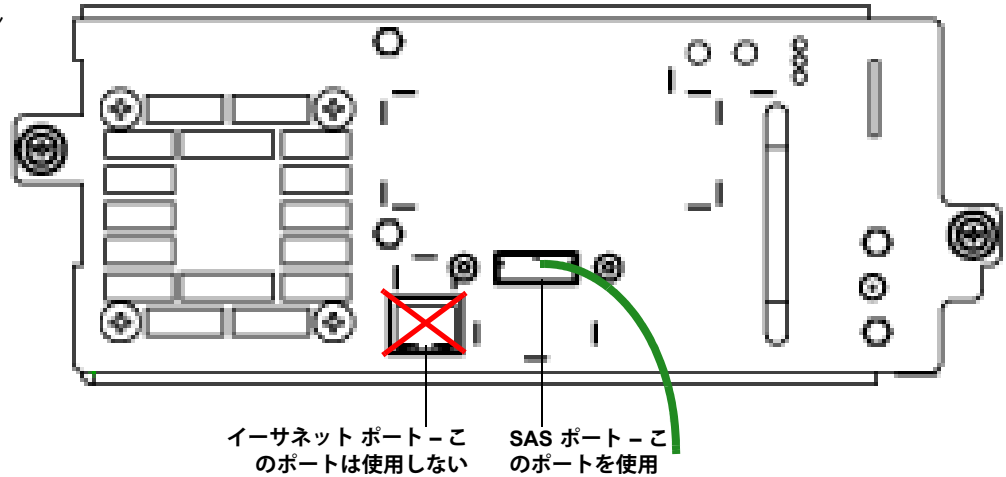
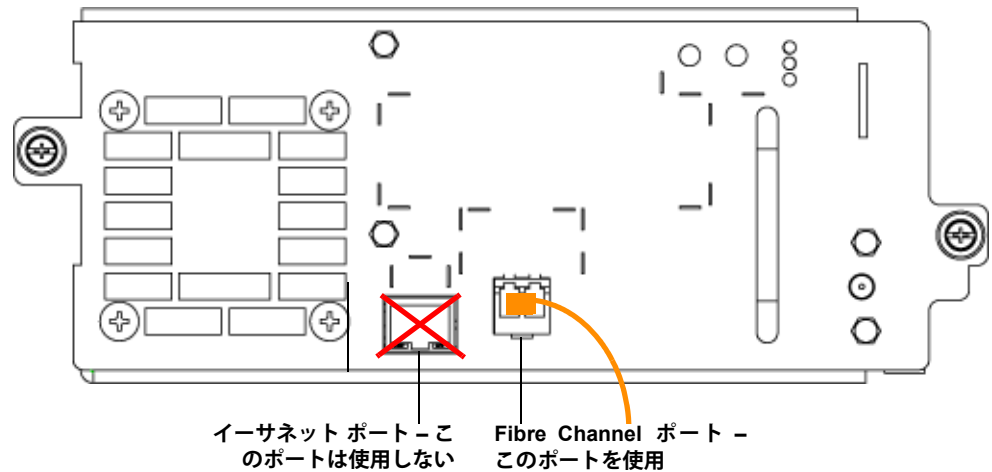


図 3 IBM LTO-5 および LTO-6 シングルポート Fibre Channel テープドライブ



パラレル SCSI ケーブルの接続

SCSI テープドライブの接続方法としては、1つの SCSI バスにつきテープドライブを1台接続する方法と2台接続する方法が推奨されます。

注意： ライブラリは (内部配線を含み) 最長 12 メートルの Ultra 160 SCSI と Ultra 320 SCSI ケーブルをサポートしています。

1つの SCSI バスにつきテープドライブ1台を接続するには：

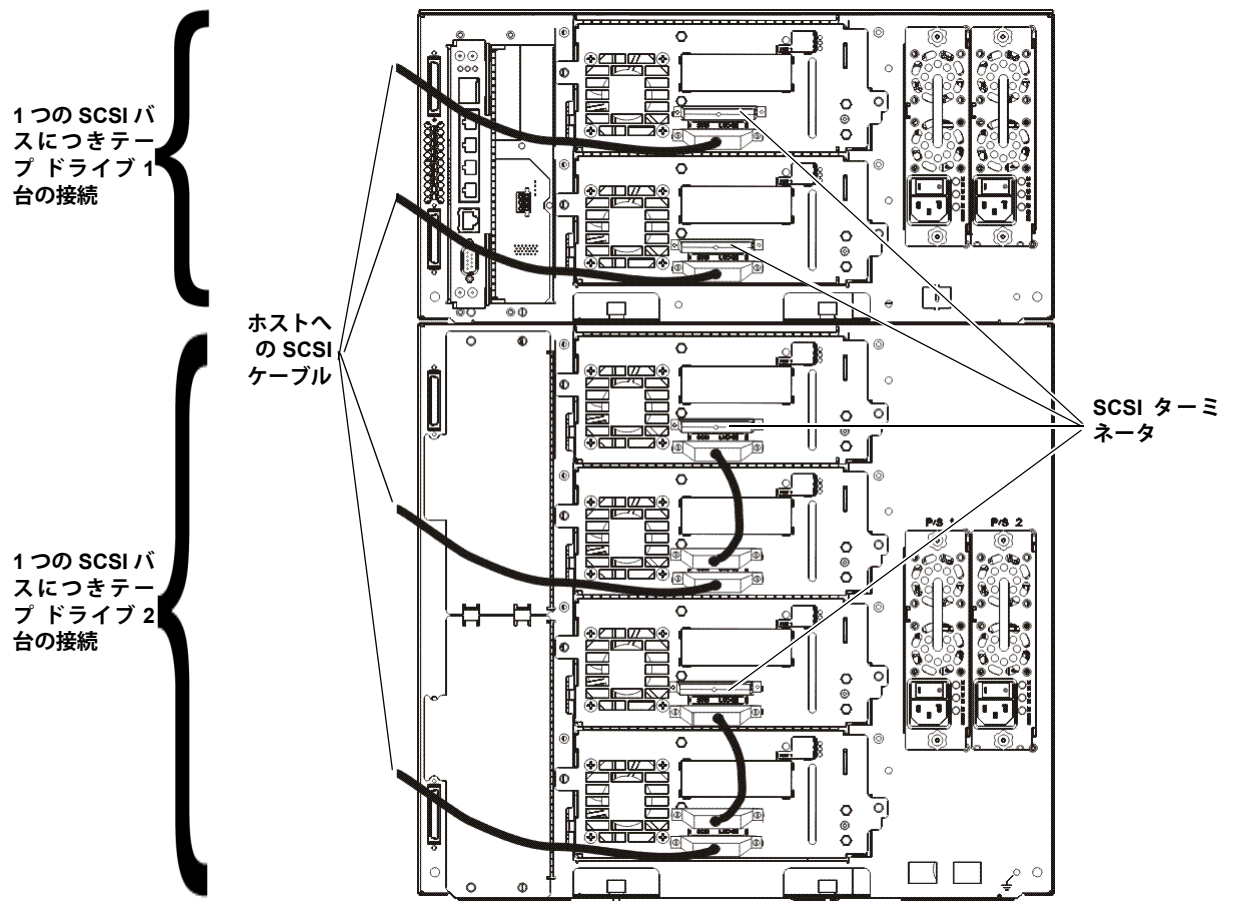
- 1 SCSI ケーブルを使って、テープドライブの下側のポートをホストシステムに接続します。
- 2 SCSI ターミネータをテープドライブの上側のポートに取り付けて終端します。

1 つの SCSI バスにつきテープ ドライブ 2 台を接続するには：

- 1 SCSI ケーブルの一端を一番下のテープ ドライブの一番上の SCSI ポートに接続します。次にケーブルの另一端をすぐ上のテープ ドライブの一番下の SCSI ポートに接続します。パフォーマンス上の問題を避けるために、1 つの SCSI バスにつきテープ ドライブを 3 台以上接続しないでください。

注： 2 台のテープ ドライブは、長さが 30 cm 以上の SCSI ケーブルで接続します。

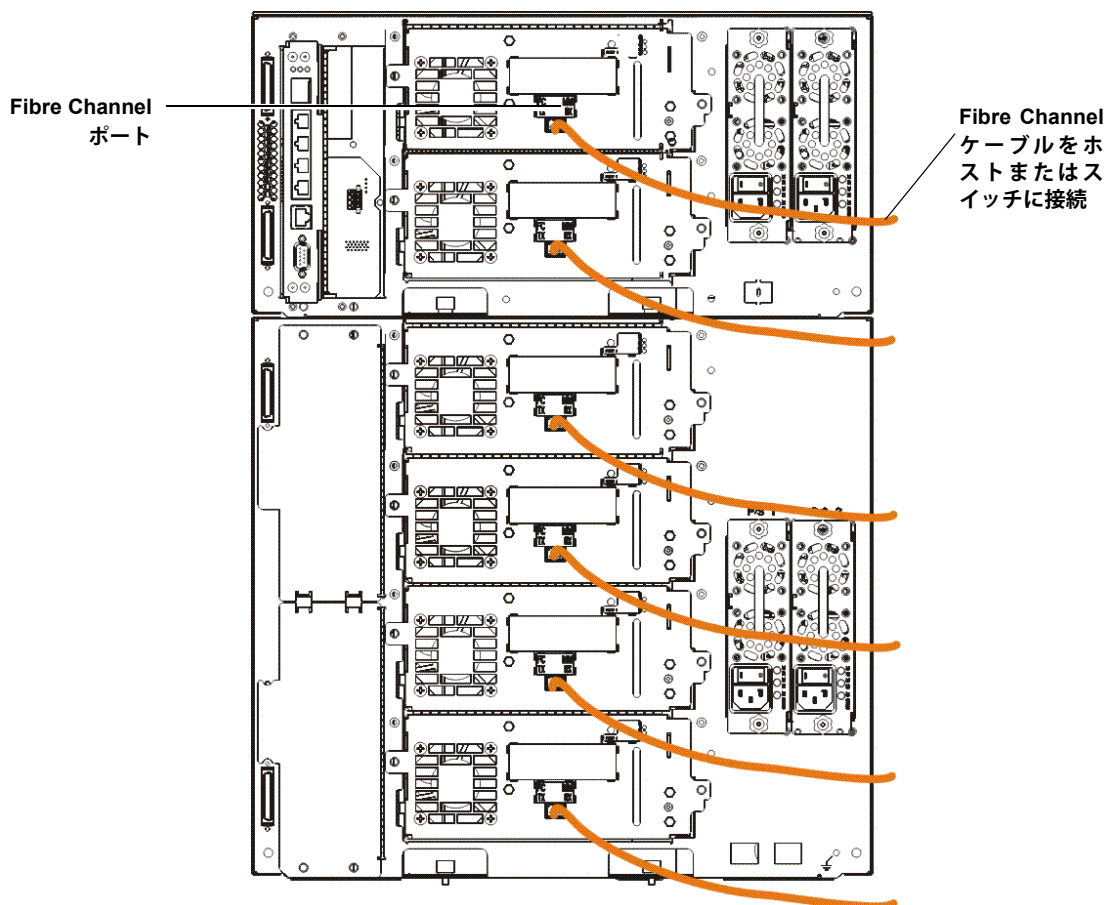
- 2 別の SCSI ケーブルを使って、SCSI バスの下側のテープ ドライブをホストシステムに接続します。
- 3 SCSI ターミネータを SCSI バスの上側のテープ ドライブに取り付けて終端します。



ホストまたはスイッチへの Fibre Channel ケーブルの 直接接続

各テープドライブに対し、以下を行います。

- 1 Fibre Channel ケーブルの一端をテープドライブの Fibre Channel ポートに接続します。
- 2 ケーブルの另一端をホストまたはスイッチに接続します。



Fibre Channel I/O ブレードを通した Fibre Channel ケーブルの接続

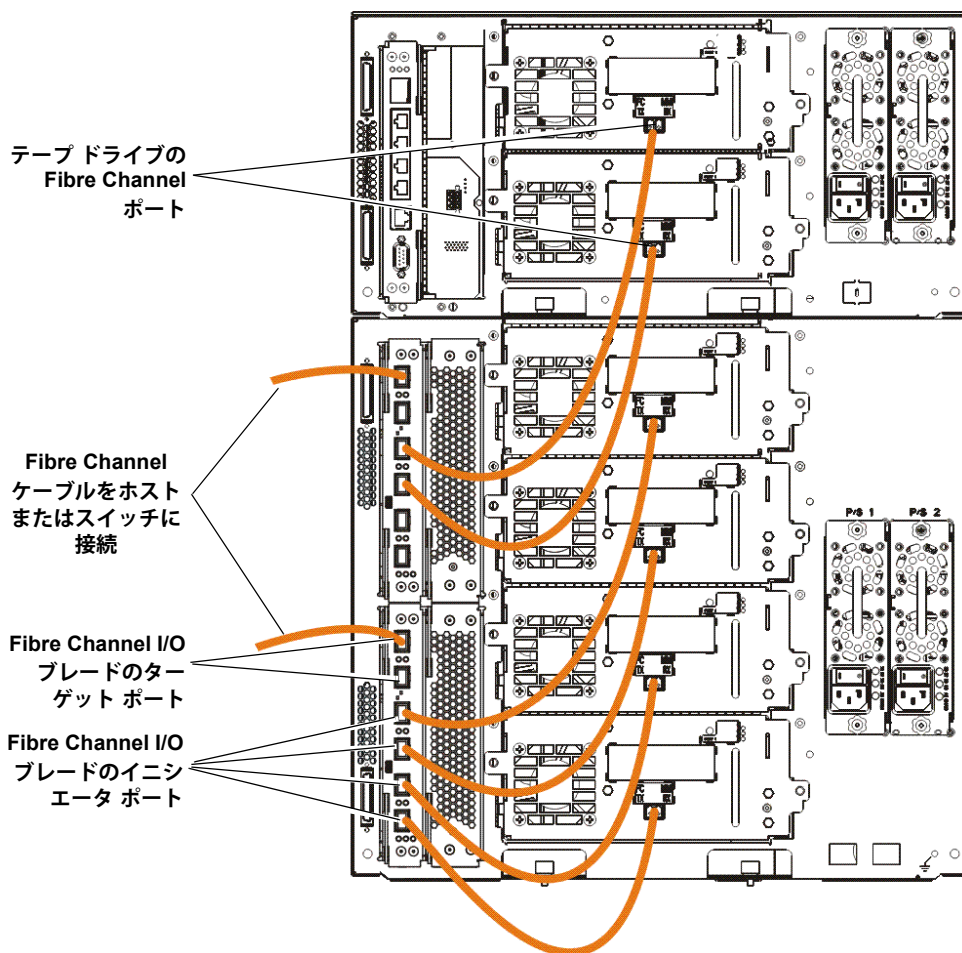
各テープドライブに対し、以下を行います。

注： ドライブは、Fibre Channel I/O ブレードに接続されているときはイーサネットに接続できない場合があります。

- 1 Fibre Channel ケーブルの一端をテープドライブの Fibre Channel ポートに接続します。
- 2 ケーブルの另一端を一番近くの Fibre Channel I/O ブレードのイニシエータポート (下方のポート 3～6) のいずれかに接続します。

各 Fibre Channel I/O ブレードで次の作業を行います。

- 3 Fibre Channel ケーブルの一端を Fibre Channel I/O ブレードのターゲットポート (上方のポート 1 と 2) のどちらかに接続します。
- 4 ケーブルの另一端をホストまたはスイッチに接続します。

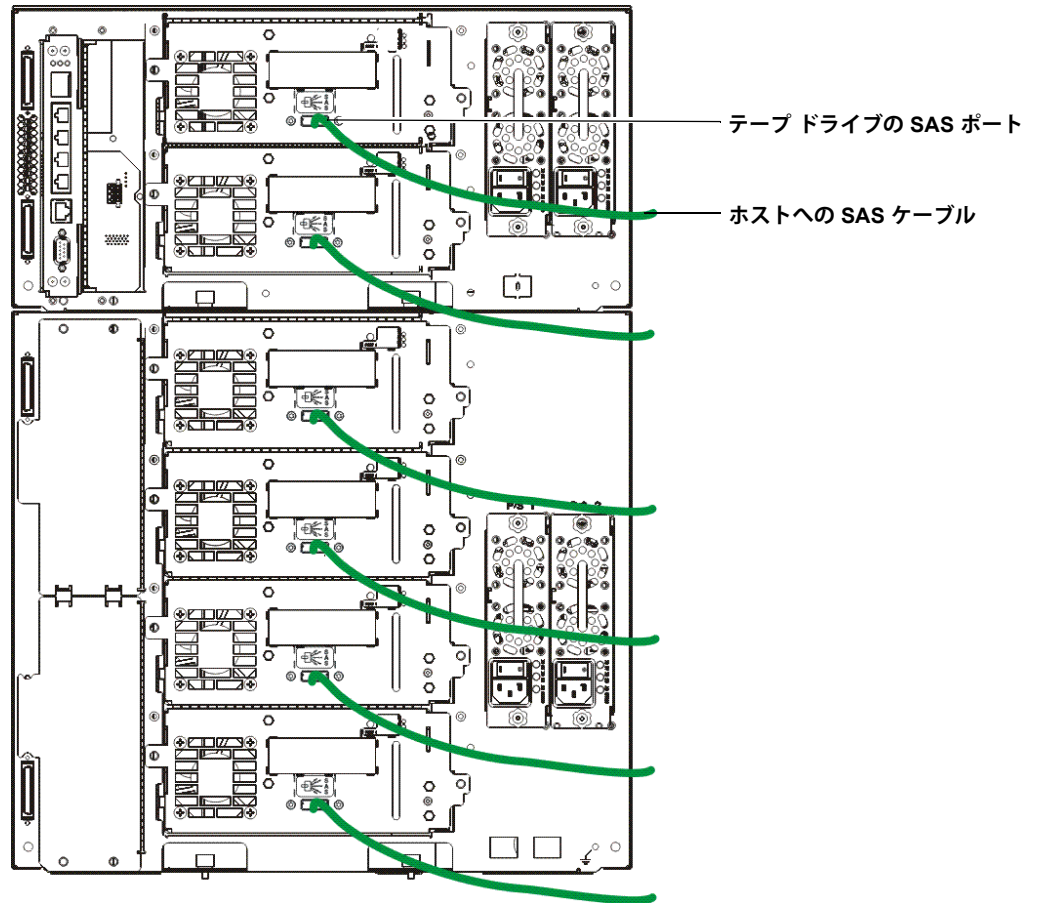


Serial Attached SCSI (SAS) ケーブルの接続

各テープドライブに対し、以下を行います。

- 1 SAS ケーブルの一端をテープドライブの SAS ポートに接続します。
- 2 ケーブルの另一端をホストに直接接続します。

注意： Quantum では、SAS-1 および SAS-2 テープドライブをいずれも販売しています。SAS-2 テクノロジーおよび SAS-2 基準では、SAS-1 と比較して接続速度が増加し、ケーブル長が長くなっています。SAS テープドライブの使用時には、Quantum 認定ケーブルのご使用を推奨します。Quantum の認定ケーブルは、テープライブラリの SAS 接続アーキテクチャとの互換性を特に考慮して設計されています。



ステップ 6：ライブラリのケーブル接続

- 1 制御モジュールと拡張モジュールのモジュール コネクタをカバーしているプラスチック製の保護キャップを外します。

- 2 モジュール ケーブルとモジュール ターミネータを接続します。

すべてのライブラリでモジュール ターミネータを使用する必要があります。複数モジュール構成のライブラリでは、モジュール間ケーブルを使用する必要があります。

注意： モジュール ターミネータは、SCSI ターミネータとは異なります。モジュール ターミネータの代わりに SCSI ターミネータを使うと、ライブラリが損傷する可能性があります。モジュール ターミネータは、プラスチック包装されて、制御モジュールの裏面に結び付けられていることがあります。

- a 付属品キットにあるモジュール間ケーブルを使って、各モジュールをそれぞれその 1 つ上のモジュールに接続します。ケーブルの一端を一番下のモジュールに接続します。次に、ケーブルのもう一端を 1 つ上のモジュールに接続します。
 - b 制御モジュールの裏面に結ばれているモジュール ターミネータを使って、一番上と一番下のモジュールを終端します。
- 3 ライブラリのイーサネット ケーブルを接続して、ライブラリを管理します。

ウェブ クライアント経由でライブラリへリモート アクセスするためのライブラリ制御ブレード (LCB) の一番上にあるギガビット イーサネット ポートにイーサネットケーブルを接続します。(イーサネットケーブルは別途購入になります。)

- 4 モジュールのイーサネット ケーブルに接続します (必要な場合)。

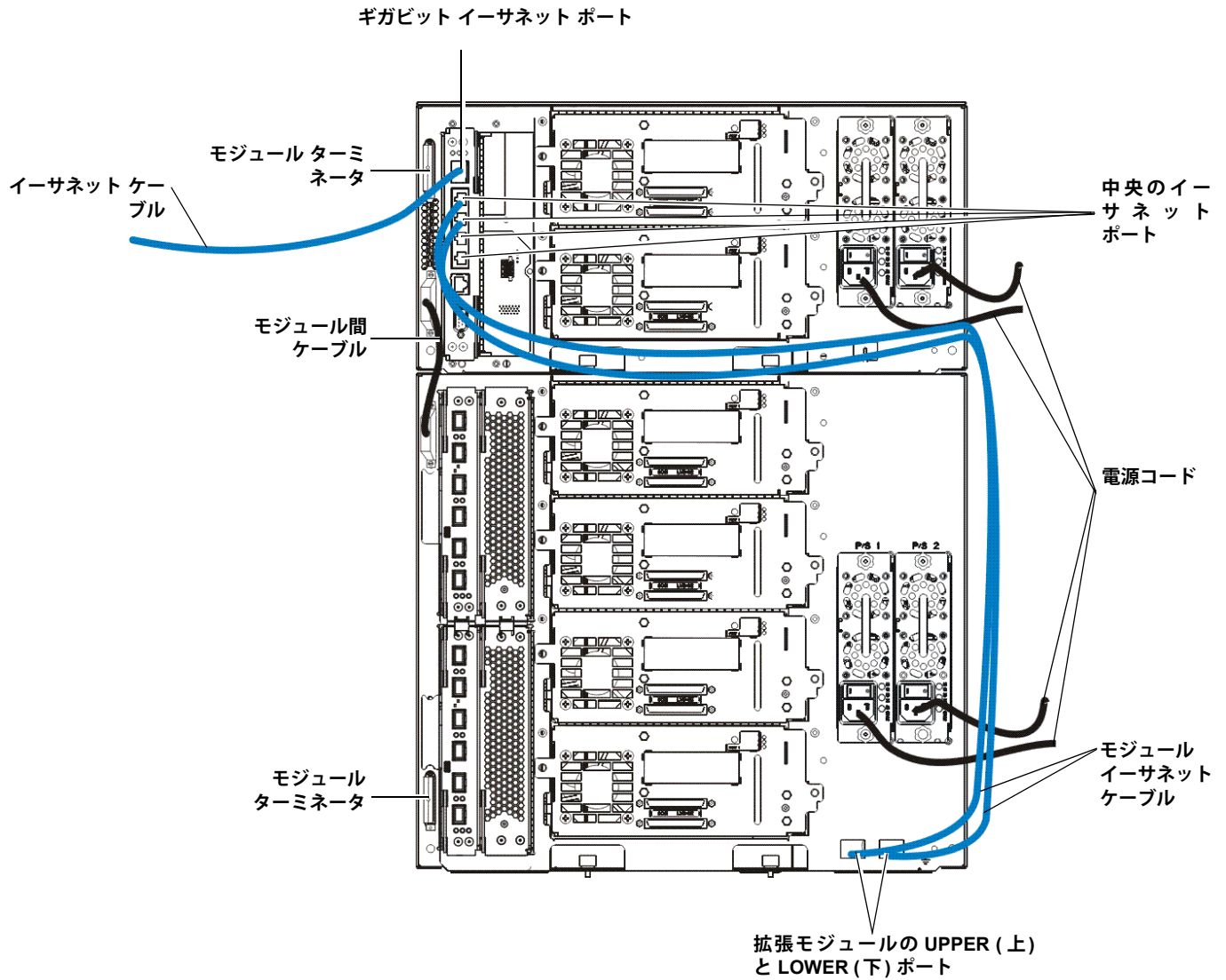
お使いのライブラリに 1 つでも Fibre Channel I/O ブレードまたは EEB が含まれる場合はこの手順を実行してください。

イーサネット ケーブルを使用して、ライブラリの制御モジュールの LCB を Fibre Channel I/O ブレードまたは EEB を含む拡張モジュールのそれぞれに接続します。拡張モジュールに取り付けられた各 Fibre Channel I/O ブレードまたは EEB について、次の作業を行います。

- a イーサネットケーブルの一端を LCB イーサネット ハブ上の中央 4 個のイーサネット ポートのいずれかに接続します。(一番上のポートは、ウェブ クライアント経由によるライブラリへのリモート アクセス用で、一番下のポートはサービス アクセス用です。)
 - b ケーブルのもう一端を 9U 拡張モジュールの適切なポートに接続します。Fibre Channel I/O ブレードが上のベイに取り付けられている場合は、「UPPER」(上)と表示されているポートを使用します。Fibre Channel I/O ブレードまたは EEB が下のベイに取り付けられている場合は、「LOWER」(下)と表示されているポートを使用します。
- 5 電源コードを接続します。

テープドライブがある各モジュールには少なくとも 1 台の電源装置が必要です。

各電源装置に対し、電源コードの一端を電源装置に接続します。次に、もう一端を近くの (製品ラベルに記載されている種類の) 接地電源コンセントに接続します。

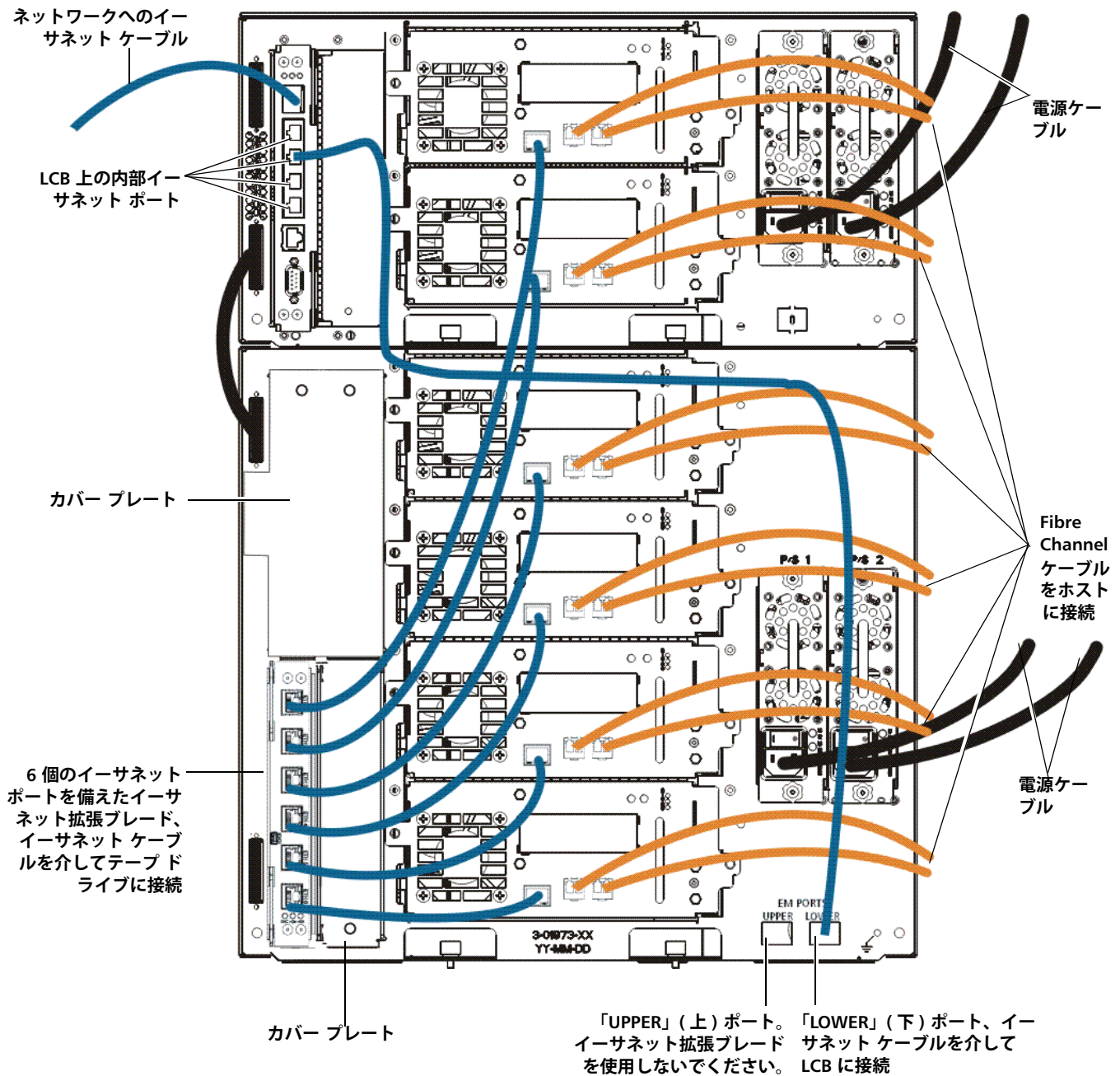


EEB へのイーサネットケーブルの接続

各テープドライブに対し、以下を行います。

- イーサネット ケーブルの片方の端をサポートしているテープ ドライブのイーサネット ポートに接続します。
- ケーブルのもう一方の端を最も近い EEB の使用可能なポートに接続します。

注： 5U 制御モジュールしか構成されていない場合は、テープ ドライブは LCB イーサネット ハブの任意のセンター ポートにイーサネットで接続できます。14U 以上のライブラリでは、イーサネット接続用 EEB を使用する必要があります。



ステップ 7: ライブラリ設定

- 1 ライブラリの電源を入れます。
 - a 各電源装置の背部にある電源スイッチをオンにします。

b ライブラリ前面の電源スイッチを1回押します。

2 ライブラリの構成

最初にライブラリの電源を入れると、操作パネルにセットアップウィザードが表示されます。セットアップウィザードを使うと、ネットワークの設定、日時の設定、ユーザーアカウントの作成、I/E スロットの設定を含め、ライブラリの使用を開始するためのその他のタスクを実行できます。操作パネルでセットアップウィザードの使用を開始する必要があります。初期設定後、ウェブクライアント上で引き続きセットアップウィザードを使用できます。

注： 初期設定をスキップすることも、途中で中止することもできます。そうした場合は、指定しなかった設定には変更されるまで次のデフォルト設定が割り当てられます。

- DHCP 有効
- I/E ステーション スロット 6 個
- クリーニングカートリッジスロット 0 個
- ライブラリは、テープドライブをそのインターフェイスタイプ (SCSI、FC、SAS)、生成、およびベンダーに従ってグループ化してパーティションを作成し、使用可能なライブラリリソースをそれらのパーティション間で比例的に分配します。

注： 操作パネルのセットアップウィザードは、最初にライブラリに電源を入れたときに一度だけ表示されます。操作パネルでネットワーク設定を指定するまで、ウェブクライアントにログインできません。ネットワーク設定を指定する前に操作パネルのセットアップウィザードを終了した場合は、ウェブクライアントにログインする前に、操作パネル (**Setup (セットアップ) > Network Mgmt (ネットワーク管理)**) でネットワーク設定を指定する必要があります。

以下は、セットアップウィザードを使用して初期設定をするときに推奨される手順です。

- a ライブラリの電源を入れ、操作パネルでセットアップウィザードを使い始めます。
- b ウェブクライアントからライブラリにアクセスできるようにするネットワーク設定の入力が求められます。この手順は必ず完了してください。
- c ライブラリの IP アドレスを使って、ウェブクライアントを開きます。ライブラリの IP アドレスを表示するには、操作パネルで **Setup (セットアップ) > Network Mgmt (ネットワーク管理)** を選択します。
- d デフォルトの管理アカウントを使用して、次に示すようにウェブクライアントにログインします。
 - User Name (ユーザー名) : **admin**
 - Password (パスワード) : **password**
- e ウェブクライアントの Setup Wizard (セットアップウィザード) 画面を完了します。最後の Setup Wizard (セットアップウィザード) 画面で設定を適用します。

セットアップウィザードを完了したら、ウェブクライアントに Library Configuration (ライブラリ設定) レポートが表示されます。Library Configuration (ライブラリ設定) レポートには、ライブラリのテープドライブ、パーティション、I/E ステーション、ストレージスロット、クリーニングスロット、ロードされているメディアに関する情報が表示されます。

容量オンデマンド (COD)、暗号キーの管理 (EKM)、詳細レポート (AR)、またはストレージ ネットワーキング (SNW) のライセンスが必要な場合は、テクニカルサポートまでご連絡ください。テクニカル サポートの連絡先情報については、<http://www.quantum.com/support> をご覧ください。

ライブラリ設定の詳細手順は、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。ライブラリのオンラインヘルプも参照してください。オンラインヘルプシステムにアクセスするには、ウェブクライアントまたは操作パネルの右上にある **Help (ヘルプ)** アイコンをクリックします。

注： SMI-S は、デフォルトで無効になっています。SMI-S を有効にする場合は、操作パネルで **Tools (ツール) > System Settings (システム設定) > Enable SMI-S (SMI-S を有効にする)** を選択して、手動で有効にする必要があります。

3 ライブラリのパーティションを構成します。 詳細については、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。

4 テープカートリッジのライブラリへのロード

テープカートリッジをインポートして一括ロードする手順は、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。

手動によるカートリッジの割り当てが有効 (デフォルト設定) になっていると、カートリッジをパーティションに割り当てまで I/E コマンドでインポートできません。操作パネルの Assign IE (IE の割り当て) 画面で、カートリッジをパーティションに割り当てるように指示されます。

手動によるカートリッジの割り当てが無効になっていると、Assign IE (IE の割り当て) 画面は表示されず、I/E ステーションのカートリッジはすべてのパーティションのみでなく、システムパーティションにも表示され、どのパーティションからも使用することができます。詳細については、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。

5 ライブラリを登録します (ウェブクライアントで、**Setup (セットアップ) > Register Library (ライブラリの登録)** を選択します)。

6 ホストアプリケーションへの接続

a ホストシステムの電源を入れます。

b メディアチェンジャ デバイスとテープドライブとの通信を確認します。

ホストアプリケーションがライブラリの各テープカートリッジの場所についてインベントリを実行する場合は、ホストアプリケーションを開いて再インベントリを行い、論理インベントリをライブラリの物理インベントリと同期させます。

手順については、ホストアプリケーションのマニュアルを参照してください。

ステップ 8：ライブラリの実行

これで、ライブラリの使用を開始する準備ができました。ライブラリの使い方については、『*Scalar i500 ユーザーズ ガイド*』を参照してください。ライブラリのオンラインへ

ルプも参照してください。オンライン ヘルプ システムにアクセスするには、ウェブ クライアントまたは操作パネルの右上にある **Help (ヘルプ)** アイコンをクリックします。

注： 最新のドライバは、www.quantum.com からダウンロードできます。

注： 各ライブラリが対応できる拡張モジュールの最大数は、ライブラリを実行しているファームウェアのレベルによって異なります。5U、14U、または 23U 構成をアップグレードするには、最新のファームウェアがライブラリにインストールされている必要があります。最新ファームウェアの一覧と Quantum サポートへのリンクは、www.quantum.com をご覧ください。最新ファームウェアを入手するには、Quantum サポートにお問い合わせください。